



▶ベンチ入りメンバーリスト

背番号	選手	守備	学年	投/打
1	栄田人達	投手	2	左/左
2	栗本賢佑	捕手	2	右/右
3	森 柗真	投手	2	右/右
4	小山 剛	内野手	2	右/右
5	中川漣心	内野手	2	右/左
6	加瀬大雅	内野手	2	右/左
7	菊地達斗	外野手	2	左/左
8	松山颯汰	外野手	2	右/右
9	梶谷大也	外野手	2	右/右
10	磯部陸人	投手	3	右/右
11	奥野彼方	投手	3	右/右
12	田中礼雅	捕手	3	右/右
13	山口拓真	内野手	3	右/右
14	立岩蒼晴	内野手	2	右/右
15	野田親之介	内野手	2	右/右
16	渡邊泰生	内野手	2	右/右
17	安藤悠惺	外野手	2	右/右
18	賛 慶太	投手	2	右/右
19	中元響生	外野手	3	右/左
20	大澤匡也	捕手	3	右/右

監督 森田亮太 部長 萩原忠之 (敬称略)

▶三重県大会試合結果

日付	回戦	対戦校	試合結果
7/19	2回戦	桑名西	5-2
7/22	3回戦	津西	7-0
7/24	準々決勝	近大高専	4-2
7/27	準決勝	三重	7-0
7/29	決勝	鈴鹿	2-0

▶甲子園1回戦 南陽工業高校戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
孤野	1	0	1	1	0	2	0	0	1	6
南陽工	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2

▶甲子園2回戦 西日本短大付属高校戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
西短大付	1	0	8	0	0	0	1	0	3	13
孤野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

**令** 和6年8月9日、阪神甲子園球場での山口県代表、南陽工業高校との一戦。この試合でも孤野ナインは2年生中心のチームとは思えない落ち着いた立ち上がりで1回から先制します。毎回、ランナーを出して得点圏に迫り、着実に追加点を奪い、六回には捕手を務める栗本選手が2連続で二盗を刺すなど好守も光りました。投げてはエースの栄田選手が9安打を浴びながらもスライダーなどの変化球で効果的に打ち取る好投をみせました。そして迎えた最後のバッター。栄田選手は見事に打ち取って、甲子園での悲願の初勝利をつかみました。その瞬間、バ

そして訪れる初勝利の瞬間

孤野高校硬式野球部

応援リーダー阿部天斗さん(3年)  
**SUPPORTER INTERVIEW**  
プレーと応援が一体となって勝利に繋がると信じ、目の前の1戦1戦に臨んできました。野球部内でも声の大きさには自信があるので、時には太鼓、時にはメガホンを握りながらどのようなピンチの場面でも応援だけは負けないという心持ちをもって全力で甲子園のアルプス席から声援を送り続けました。私たち3年生を甲子園まで連れてきてくれた2年生の後輩たちに感謝し、応援で恩返しのできたのではないかと思います。



孤野高校硬式野球部

OB会長樋口稜輔さん  
**SUPPORTER INTERVIEW**  
地域全体で応援したいと思い、甲子園での応援をOBに呼びかけたところ、100人以上が集まって盛大にアルプス席で応援しました。これまで孤野高校野球部は、甲子園での1勝を逃してきたので、この1勝は歴史に残る1勝であると感じています！今年のレギュラーメンバーは2年生主体のチームでしたが、支えてきた3年生あつての今回の結果でもあると思うので、3年生の皆さんにも労いの言葉を贈りたいです。



ス23台分の応援団が詰めかけた3星側のアルプススタンドでは大きな歓声が上がり、栄誉を称えて甲子園で孤野高校の校歌が響き渡りました。次に進んだ2回戦では福岡県代表の西日本短大付属高校に0-13で敗

れ、孤野高校野球部のさらなる躍進は叶いませんでしたが、孤野の名を全国に轟かせ、応援する私たちにもたくさんの感動を与えてくれました。夏の素晴らしい思い出をありがとう、孤野高校野球部！



1 県大会優勝後、役場で行った優勝報告会 2 今回の甲子園のために用意したTシャツ、メガホン、キャップの孤野高校応援グッズ 3 西日本短大付属高校戦で行った町民センターホールでのパブリックビューイング



念願の優勝  
甲子園初勝利へ

栄誉を称えて響く

孤野高校校歌

連なる山を

望みつつ

孤野に來れば

裾曳きて

高くしづけき

原をなす

学びの庭の

ここは佳し

作詞 山口誓子 作曲 横田幸次

この夏に懸けた孤高野球部の軌跡

これまで春夏3回の甲子園出場を果たしている孤高野球部。しかし、甲子園での一勝は遠く、チャンスを逃してきました。悲願の初勝利に向け、この夏に懸けた球児たちの軌跡をたどりま

2年生中心のチームで挑む

**平** 成17年、平成20年から永らく逃し続けていた孤野高校硬式野球部(以下、「孤野高校野球部」)の夏の甲子園出場。大会直前の6月、これまで野球部を率いてきた監督から新監督に交代し、誰もが逆境だと思

う状況の中で、先発メンバーは全て2年生という孤野ナインは三重県大会で躍動します。エースを務める投手の栄田選手は、必要な場面場面で変化球を見事なコースに決め、県大会全5試合を投げ抜き、孤野高校野球部の勝利に貢献しました。どの打順からでも繋げていける強力な打線も多くのチャンスをつくり、チームは決勝へと駒を進めていきました。そして迎えた鈴鹿高校との県大会決勝戦。決勝戦とは思えない落ち着きで完封勝利を飾った栄田選手の活躍もあり、16年ぶりの県大会優勝を果たし、球児たちの夢である甲子園への切符を勝ち取りました。

孤野高校硬式野球部

監督 森田亮太さん

PLAYER INTERVIEW

私も想定していなかったタイミングで監督となり、当初はプレッシャーもありましたが、このチームを守りたい気持ちと選手たちに支えられて甲子園出場を果たすことができました。春の東海地区大会での準優勝も夏の結果に繋がったように感じます。このチームをつくってきた3年生の存在も大きく、さまざまな部分で助けられました。選手たちには苦しい場面でも下を向かず



に勝負を楽しむように声掛けし、選手を信頼して臨んできた結果が甲子園初勝利に繋がりました。

孤野高校硬式野球部

主将 山口拓真さん(3年)

PLAYER INTERVIEW

甲子園は遠い存在だと感じていましたが、県大会を勝ち上がっていくにつれて、その存在に近づいていることを実感してきました。今年のチームは団結力も強く、一体感も良かったので県大会の競り合いの中でも勝ち切れたんだと思います。球場の雰囲気緊張することもありましたが、焦らず着実にプレーしていこうと声掛けてこの結果をつかむことができました。今まで私たちを支えてくれた皆さんに感謝し、少しでも恩返しできたように感じます。



栄光の瞬間  
スポーツで輝く